



右隻



左隻

18 中村蕉畝

《朝陽に松鳳凰図》 六曲一双

昭和三年（一九二八）

絹本金地着色

本紙各一七七・六×三八一・六

朝陽と松、鳳凰という吉祥の図様としては最も格式の高い意匠の取り合わせを、金地に描き表わした屏風である。番の白鳳は、明らかに十八世紀の絵師、伊藤若冲の代表作「動植綵絵」の中の一冊「老松白鳳図」を範とした上で、堂々とした大木の松樹と、金雲に浮ぶ真つ赤な朝陽と共に描くという、大札を強く意識した構図である。鮮やかな色彩と明瞭な描線が金地に栄え、格式の高い図様が、より荘厳性を高めて描かれている。

本作品は、昭和大礼の奉祝品として、東京商工会議所から献上されたもので、その製作は中村蕉畝（一八八七〜？）に依頼された。中村は常陸の生まれ、はじめ画を早川仙舟、松下雪江に学んだ後、東京へ出て荒木十畝の門に入って花鳥画を中心として製作、活動した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 大礼 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan